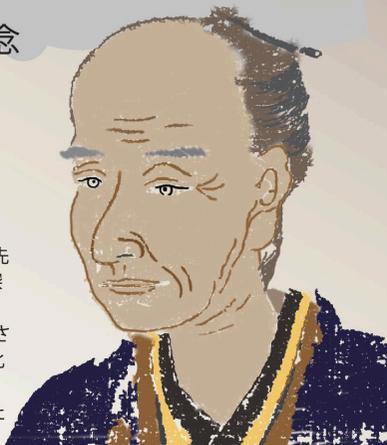


「廣瀬淡窓旧宅及び墓」国指定史跡追加指定記念

- 協賛企画 -

『淡窓と考古学』



◎開催にあたって

廣瀬淡窓は教育者として、咸宜園を全国最大の私塾へと導いた日田の偉大な先人の一人であることは有名ですが、そんな淡窓が現在で言う文化財にも造詣が深かったということは意外に知られていません。

今回は、廣瀬淡窓の生家が『廣瀬淡窓旧宅及び墓』として国の史跡に追加指定されたことを記念して、『淡窓と考古学』と題し市内外にある淡窓とゆかりのある文化財を紹介する企画展を行います。

この展示を通じて私たちの意外に身近なところにある淡窓の足跡に触れていたければ幸いです。

鑑堂古墳出土銅鏡 (豊後高田市)

文政7(1824)年淡窓は高田から来た人物が所蔵する鏡を見て、それに記されている文字を読んだという記述が日記に残っている。淡窓の歴史に対する造詣が窺える貴重なエピソードの一つである。また、この鏡は鑑堂古墳より出土した銅鏡と考えられており、鑑堂古墳は、現在はその姿を残していないが、約18mほどの円墳であったと言われる。

長福寺学寮跡 (城下町遺跡3次調査)

淡窓は24歳の時【文化2(1805)年】に、今まで講義を行っていた廣瀬南家土蔵から長福寺学寮の一階を借り移り、最初に開塾したといわれる。長福寺学寮は、長福寺10世通元の宝暦9(1759)年に創建された。学寮は修行僧のために仏典や詩文を講義する場で、淡窓は12世法幢から詩経の句読を受けたといわれる。

今回の調査で発見された礎石跡は、その建物規模などから昭和18年に解体された学寮跡の可能性が高いと考えられる。

石人 (銭測町)

福岡県岩戸山古墳より出土したといわれる石人(写真左)と石人山古墳の石人の模造品(写真右)。台座には、淡窓と咸宜園3代塾長青邨によってまとめられ、青邨によって記されたという石人の由来が刻まれている。

帰安碑 (丸山2丁目)

文化15(1818)年、郡代塩谷大郎正義によって永山城に金毘羅社が建設される際に中腹より古墳時代の横穴墓と人骨が出土した為、永山城の下に改葬し供養塔を建てた。その際、淡窓が塩谷郡代の命を受け碑文を書いたといわれる。現在は月隈神社参道の中腹に安置されている。

陰徳倉碑 (丸山2丁目)

文政2(1819)年に塩谷郡代が臨時救済を目的とした備蓄用の「陰徳倉」を設置した際に記念碑として造られた。倉に寄付した限・豆田の商家90数軒の中には、淡窓の弟・久兵衛を含む廣瀬家(屋号「博多屋」)関係者の名が複数見える。



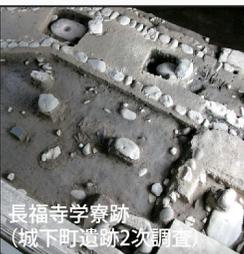
鑑堂古墳出土銅鏡 (豊後高田市)



石人 (銭測町)



帰安碑 (丸山2丁目)



長福寺学寮跡 (城下町遺跡2次調査)



陰徳倉碑 (丸山2丁目)



アクセス

お問い合わせ

日田市教育庁文化財保護課 埋蔵文化財係 (日田市埋蔵文化財センター)

〒877-0077 大分県日田市南友田町 516-1

TEL_0973-24-7171 [url] http://www.city.hita.oita.jp

※速報展の情報については日田市のホームページでもご覧になれます

主催：日田市教育委員会

平成 24 年度埋蔵文化財発掘調査

速報展

soku - ho - ten
ソク ホリ テン

開催期間

平成 25 年 6 月 21 日 (金) ~ 8 月 30 日 (金)

開館時間

9:00 ~ 16:00

土曜・日曜・祝日は閉館。

但し、6月22日(土)・23日(日)は開館

展示会場

日田市埋蔵文化財センター展示室 (入館料無料)



【今年の速報展は...】

重要遺跡の確認調査として永山城跡や小迫辻原遺跡の調査をはじめ、ガランドヤ古墳や慈眼山遺跡など日田市の歴史を知る上で重要な遺跡の調査が数多く行われ、それに伴い多くの遺物が出土しました。今回は、これら遺跡の調査成果を、出土した遺物を通して皆様を紹介します。

本村遺跡5次調査

古墳時代中期の住居跡(左写真)や古墳時代後期~古代の水田に関係すると思われる水路が発見され、調査地周辺では集落が営まれていたと考えられる。発見された住居跡からは生活に使われていたと思われる埴や勾玉(右写真)、水路からは大量の土器や模造鏡などが出土している。



鍛冶屋廻り遺跡2次調査

弥生時代後期の土坑が複数発見され、遺構からは竃などが出土している。調査地周辺では今まで弥生時代の遺跡が見つかっておらず、今回の調査で周囲に弥生時代の遺跡が広がるのが新たに確認された。



永山城跡3次調査

北側の堀を調査し、現在地表に露出している石垣の下にも石積みが存在することが確認され、その石積みは積み方から4つの時期に分けられることが分かった(右写真)。その内、最下段の石積みは築城時期に近い時期のものと考えられる。また、本丸北側の曲輪から搦手口に至る通路にも高石垣が施されていることが確認された(左写真)。



